



冬来たりなば、春遠からじ！ no.1 ～「全九州水平社創立の地に学ぶ」フィールドワーク報告～

報告者：中島弘陽



歴史を学ぶことは、現代を知ることであり、そして未来を考えることである

現在、自民党政権の中で、主権在民主義、国際平和主義、基本的人権の尊重という日本国憲法の三原則が骨抜きにされようとしている。



そして、**労働者を分断させ労働運動の弱体化を狙う攻撃**がなされて

ている。とりわけ、私たち教職員組合に関して言えば、第一次安倍政権下で強行採決された「**教育基本法改正（改悪）**」を受けて、学校が次々と新たな教育施策を抱え込まされているという攻撃がなされている。

さらに、その攻撃によって、「忖度・命令・服従」と言ったおよそ戦後民主主義・民主教育の理念とは反する学校の姿を生んでいるように見えるのは私だけだろうか。つまり、今日、市教委から学校に持ち込まれる教育施策の多くは**権力に忖度**したものであり、その施策を管理職が一般の**教職員に命令**し、一般の教職員はその命令に**疑うことなく服従**してしまっているように感じるのだ。

私は、このような「忖度・命令・服従」の学校から「正義・自立・協働」の学校へと作りなおすことが、私たち**教職員組合員の任務**であると思っている。私たちがめざす学校像、教育改革とは、日本国憲法の理念の実現をめざし、教師も子どもも、一人の人間として自立し、すべての人々が幸せに生きる社会づくりにむけて力を合わせることを学び合う場を創造していくことではなかろうかと思っている。

少し前置きが長くなったが、そのような課題意識のもと、73次市教組教研の人権教育分科会では、全九州水平社創立の地に学ぶフィールドワークを実施することにした。

今回のフィールドワークの前半は、1800年に5人の若者が身分制の犠牲になったことをつたえる「**寛政五人衆合葬の墓**」、五人衆の過去帳が残る「松源寺」を中心に、筑前竹槍一揆（1873年、解



放令反対一揆）によって焼き討ちにあった堀口部落を訪ねた。そこでは、身分制からの解放を願う人々の思いと苦難の歴史を学んだ。

後半は、九州水平社の委員長である松本治一郎の生家跡がある金平部落を訪れた。そこで



は主に、治一郎が建設した「**松治保育園（現、馬出保育所）**」と、それぞれ徳川辞

爵勧告闘争、福岡連隊差別糾弾闘争などを闘いながらも犠牲となった松本源太郎、藤岡正右衛門の墓、また、松本治一郎が座右の銘とした



「**不可侵不可被侵**」の碑がある大光寺を訪れた。大光寺は、治一郎の父である次吉が多額の私財を投じて創建した浄土真宗寺であり、全九州水平社創立の記念写真が撮影されるなど九州水平社の運動の拠点となった寺でもある。



つづく

わからないこと・困ったことがあったら… 何でも気軽にお問い合わせください！



///JTU 北九州市教職員組合 〒802-0072 小倉北区東篠崎3丁目4-1

E-mail: jtuhokyu@lime.ocn.ne.jp

北九州教育会館 TEL (093) 953-0381

